

作善業としての瓦経

伊勢小町塚・菩提山瓦経の復原から

村木二郎

Gakyo, for the Aim to be Reborn in Paradise: by the Restoration of Gakyo Buried at Ise-Komachizuka and Ise-Bodaisan

はじめに

- ① 瓦経の研究史
- ② 小町塚瓦経と菩提山瓦経
- ③ 瓦経の復原
- ④ 小町塚・菩提山瓦経の内訳
- ⑤ 作善業としての瓦経

【論文要旨】

経塚は弥勒信仰や阿弥陀信仰などの様々な影響のもと造られた。それが時代を経るにしたがって、経塚を造る功德によって極楽往生を願う、という阿弥陀信仰に収斂されていく。ところで、紙に書いた経典を埋める一般的な紙本経塚以外に、粘土板に経典を刻んで焼き上げたものを埋納した瓦経塚がある。紙が腐ってしまうのに対し、瓦経は「不朽」なので、弥勒下生の時まで残すことができるのである。このため瓦経は弥勒信仰による経塚の象徴として位置付けられてきた。

同時に作られ二ヶ所に埋納された、伊勢小町塚瓦経と菩提山瓦経は遺物が混乱している。ところで、国立歴史民俗博物館所蔵拓本集に、確実に小町塚から出土したことが判る瓦経片が収集されている。これを分析することにより、両者の遺物は埋納当初から混ざっていたことが判明した。すなわち作ることに重点がおかれ、埋納、保存には意が注がれなかったのである。このことから最後の紀年銘瓦経である小町塚・菩提

山瓦経には弥勒信仰の影は薄く、当時の紙本経塚同様、作善業としての阿弥陀信仰の所産であったことを論証し、瓦経がこれ以後作られなくなった意味を説く。